

写真によせて

アレナリア・メランドリーフォルミス
Arenaria melandryiformis

札幌市 梅沢 俊

写真をぱっと見て貴方は何の花だと思っ
たのだろうか？

2017年7月6日、ブータンは中央部の北
方、プムタン県の山奥の峠、トレ・ラ(4605m)
からチャチェ・ラ(4820m)へ向かう途上の
れき地で咲いていた花である。メコノプシ
ス・シェリフィー新産地の情報が入ったので
トレッキング本隊と別れてそこを1泊2日で
往復することになり、現地へ急ぎ足で向かう
途上で出会ったのだ。「見たこともない変わ
ったプリムラだなあ。帰国したら調べてみる
か」と呟いて1カットのみシャッターを押して
先を急いだ。

帰国後は雑用に追われたことと、健忘症
が重なって種名を調べることは記憶からすっ
かり消え去ってしまっていた。そしてコロナ
の2020年である。ヒマラヤの旅ができない
分時間に余裕ができたので、これまで撮影
したヒマラヤの花をチェックして出てきた
のがこの写真だ。ちょうどヒマラヤの花に
詳しい吉田外司夫さんに郵送するものがあっ
たので、この花のプリントを同封して同定結
果が今回の写真説明どおり。何とナデシコ
科ではないか。お粗末！科も分からなかった
自分を恥じ入るばかりである。

学名を意識するとフシグロ属の形に似たノ

ミノツヅリということになるのだろう。ただ
現在はフシグロ属の植物はマンテマ属 *Silene*
として扱われている。

北方山草会的東北海道

ヤチボウズ

雨竜町 佐々木 純一

植物を観察する時、お目当ての花がまだ
三分咲きだ、満開だ、萎れてるね、と喜んだ
りガッカリされるでしょう。でも葉だけで主
役となれるのがヤチボウズ(谷地坊主)。湿
原のゲゲゲの鬼太郎はスゲの大株で、花が
咲いても地味で目立たず、この容姿が面白
くて人気者です。北海道の西部は積雪の重み
でベッタラ漬けの様ですが、東部では立派
に成長して湿原を飾ります。

ハマタイセイとムラサキベンケイ ソウ

札幌市 佐藤 ひろみ

珍しいもの見たさに道内あちこち訪れます
が、個体数が少ないものはなかなか見ること
ができずにおりました。このハマタイセイ
やムラサキベンケイソウもそうで、これは函
館の酒井氏に情報をいただいてやっと見ること
ができたものです。特にハマタイセイは、

結実性は高いのに個体数は多くなく、よく絶滅しないものだと感心しています。家から遠距離の為、なかなか観察する機会はありませんが、いつかじっくりと観察したいものです。

ご無沙汰の東北海道

美唄市 新田 紀敏

以前は十勝に住んでいたこともあるのですが、最近は東北海道といえは寒い時季に温泉へ行くのが定番です。写真を選んでいると、植物を見に行かなくなった気がつきます。エゾノチチコグサはレッド データプランツ(山と溪谷社)を頼りに探しに行ったところ、思ったよりたくさんあって拍子抜けした覚えがあります。シャジクソウは道東では珍しいものではなく、海岸から内陸まで草地でよく見ます。写真は海岸の風衝地がおもしろくてよく見に行ったときのものです。我が物顔に振る舞うシロツメクサなど、外来種に包囲された *Trifolium*(シャジクソウ属)の本家として貴重な存在です。ネムロブシダマは仕事で斜里へ通っていた頃、調査地の中で顔馴染みになったもの、クシロワチガイソウは 2017 年の観察会の折に撮ったものです。

根室までなら 450km !

札幌市 本多 丘人

マルバチャルメルソウ

札幌に住む人にとってはエゾノチャルメル

ソウなら石狩市浜益あたりの沢や雨竜沼への登山道沿いで比較的簡単に見ることができます。しかしマルバの方は長年の懸案でもありました。参加したのがこの時の有志観察会。たしかドウトウアツモリソウのついでだったような気がしますが、やっと見ることができました。独特な花の形が魅力です。その後北見方面ならあちこちで見られることがわかりましたけど。てっきり道東固有の植物かと思っていきましたら長野県の一部にもあるとのこと。ドウトウの方はとっくに花は終わっていて残念ではありましたがマルバを見ることができただけでも満足でした。

オオバナノエンレイソウ

北海道の春を代表する花。山草会誌の読者ならどなたでも毎年見ているのではないのでしょうか。札幌付近で見えるものに比べて日高地方から道東にかけてのオオバナノエンレイソウは花卉が大きく華やかで、群生するといっそう見事です。広尾町の群生地は特に有名ですが、ここ大樹町晩成温泉のそばにある「ふれあいの森」でも一面の大群生、見る者は圧倒されて息をのむか感嘆の声をあげるか、どちらかになるはずです。人が少なくサクラスミレなどもあるのでオススメです。

アッケシソウ

秋に全草が写真のように紅葉するのでサンゴソウの別名があります。最初に記載され和名の元になった厚岸あたりから道北の紋別にかけてあちこちの海岸で見ることができますが、網走・能取湖の卯原内にある群生地は特に有名で、一面真っ赤に色づきます(今年、初めて見ました)。最盛期にはサン

ゴソウ祭りが卯原内でも遠く離れた隔離分布地の岡山県でも行われていて、一目見ようと人々は寄ってきます。シバザクラのピンク、菜の花の黄色、ラベンダーの紫など、一面同色の広がりには普段目にする事が無いので集客力があるのかもしれませんが。葉は退化してそれらしいものは見当たらないし花は誰も気にとめないほどジミ(ゴミのよう)だし、これで赤くならなければ見向きもされないはずです。

シレトコスミレ

局地的に分布するスマレはたくさんありますが、シレトコスミレはスマレ愛好者なら誰でも憧れると言われてます。数ある日本のスマレの中でも確かに独特の雰囲気がありますね。濃緑色の葉、さわやかな白い花弁に中心部の黄色。エキゾチックです。憧れるほどですから見るためにはそれなりの苦労が伴います。6月末から7月にかけて知床硫黄山の上の方か知床別岳まで行けば、個体数は多いので必ず開花状態のものを見ることができます。やはり体力と気力ですかね。写真は生育地の中では最も標高の低いあたりで撮ったものです。

トモシリソウ

1980年代後半から90年代はじめまで、仕事の関係でしばしば根室を訪れていました。そしてトモシリソウなので友知漁港に行けばきっとあるだろうと行って見たのが初見でした。自分でみつけた花見スポットには何度も行ってみたいのが花を見る人の習性かもしれません。しかしトモシリソウの場合、近年は友知をパスして納沙布岬で見る事が多

くなりました。岬の北側でイワベンケイなどと一緒にたくさん生えています。岩壁に生育することが多いようですが、写真の株は足元で咲いていたものです。

キヨシソウ

札幌農学校の1期生で卒業後、開拓使、道庁に勤め、千島ウルップ島の探検の際に植物採集をした内田瀨(きよし)に因んだ和名です。内田瀨は当時原生林、原野が大部分だった北海道各地で植民地(開拓地)の選定をするのが主な仕事でした。馬追丘陵の高台には、内田が訪れて現在の長沼町一帯を植民地に選定した記念として瀨台(しずかだい)という名がつけられています。だいぶ前から見ていた植物ですが、写真のような大株は初めてでした。案内していただいた本会会員に感謝。日本では根室半島の海岸岩壁だけでなく知床やユルリ島にも分布しているという話です。さて、アツモリソウ、チョウノスケソウ、トラキチラン、ユウシュンラン、シュンラン、セイヤブシ、この中で名づけかたが異質なのはどれでしょうか。失礼いたしました。

道東の湿原植物 2 種

千歳市 若松 久仁男

ハナタネツケバナ

氷河期の生き残りといわれ、道東の湿原でしか見られないようです。

情報を調べて釧路湿原へ行ってみました。ヒメカイウ、ミツガシワなどと一緒に咲いて

いるのを見つけました。花期は、5月中旬から6月下旬のようです。

サカイツツジ

道東の限られた場所でしか見られないという貴重な花です。

5月下旬から開花と聞いていたので、6月中旬に行ったついでに寄ってみました。ほぼ終わりでした。現在は5月中旬頃から咲き始めるようです。温暖化の影響でしょうか、開花時期が早まっているようです。

エゾノヨモギギク(裏表紙)

函館市 酒井 信

高所が苦手な筆者、好天気でつかまる手すりは焼けつく熱さ、何とか登りきるとエゾノヨモギギクやナガバキタアザミが多数開花していた。苦手と言いながらも、ここに来ればこれに惹かれて4回登っている。この岩にはアサギリソウやイブキジャコウソウなど多数。

2019.7.30 ウトロのオロンコ岩から

会員が撮影した東北道の写真 1 撮影: 佐藤 照雄



太平洋沿岸を彩る山野草(ハクサンチドリとチシマキンバイ) 2019.6.3 根室半島



雄阿寒岳山麓に咲くエゾチドリ
2017.7.16 阿寒湖畔